



国土交通省

## NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 平田、長原

(電話) 06-6949-6435

令和4年11月24日

### 内航船員の確保・育成対策

#### 奈良市立二名中学校および豊中市立第五中学校にて 出前講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされております。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、中長期的視点に立った取り組みの一環として、近畿管内の各小中学校を対象に出前講座を実施しています。

今般、奈良市立二名中学校および豊中市立第五中学校において、出前講座を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日：令和4年11月10日（木）～11月11日（金）

対象：奈良市立二名中学校、豊中市立第五中学校

対象者：奈良市立二名中学校：中学2年生18名

豊中市立第五中学校：中学2年生17名

講師：近畿内航船員対策協議会 特別顧問 上窪 良和 氏

講義内容：海運の重要性と船員の仕事について

配布パンフレット等：

- ・「船の仕事ってなに？」（日本内航海運組合総連合会）
- ・「船ってサイコー！」（一般社団法人日本船主協会）

配布先：海運関係業界プレス

## 奈良市立二名中学校および豊中市立第五中学校で 出前講座を実施しました。

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運(株)代表取締役社長）では、内航の若年船員不足に対する施策の一つとして、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子ども達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢として捉えてもらうことなどを目的に「出前講座」を実施しています。

今般、令和4年11月10日（木）に奈良市立二名中学校において、さらに、11月11日（金）には豊中市立第五中学校において、「出前講座」を実施しました。

いずれの出前講座も、「海運の重要性と船員の仕事について」をテーマとし、奈良市立二名中学校では2年生18名が、豊中市立第五中学校では2年生17名が参加しました。なお、両校とも、さまざまな分野のゲストティーチャーを招いたキャリア教育の一環として企画され、警察、消防、医師、保育士、美容師、新聞記者といった多様な分野から講師を招き、職業講演が実施されました。



▲奈良市立二名中学校①

当日は、同協議会の上程特別顧問を講師として、日頃、船員に接する機会の少ない生徒に、「海運」がなぜ重要か、「船員」はどのような仕事をしているかについて、世界地図を使うなどわかりやすく説明しました。

講演では、物流には陸運、空運、海運があることを挙げて、その中でも海運は、日本の貿易量の約99%以上を運んでおり、資源が少なく輸入に依存している日本において、安定的な経済活動と日常生活を支える非常に重要な役割を担っていることを説明しました。

私たちの生活に深く関わりがあることを理解してもらうために、輸入量が多い品目は何か、その用途は何かということを出題形式で出題すると、生徒達が講演に積極的になっていく様子が窺えました。クイズ終了後、その答えとなる品目は100%船で輸入しており、船が止まると産業が停滞し、日常生活に支障を来すことを説明すると海運の重要性を理解できた様子でした。

次に、船の強みとして、一度に大量の物資を運ぶことができる点を紹介し、大量輸送の一例として、大型船のデッキの大きさはサッカーのフィールドが3面並ぶほどになることを説明しました。

一方、船の弱みとして、速度が遅く、物資の輸送に時間がかかってしまう点を紹介しました。講師が実際に航海を行った航路を例に挙げて、



▲奈良市立二名中学校②

船舶の速度を時速30km、飛行機を時速900kmとすると、飛行機で10時間かかる距離は、船舶では13日程度かかる計算になることから、船員にとっては、何日も船に乗ったままになり、その結果、仕事と生活が同じ場所になるという船員の特徴をわかりやすく説明しました。



▲豊中市立第五中学校

そして、講師が実際に業務を行ったことのある「航海士」の役目として、目的の港まで船を安全に運航するために、自船の位置を正確に把握することの重要性を伝えました。海上では、当然ながら陸上の道路標識のように進行方向に地名が表示されているものは無いので、自船の位置を確認する方法として、現在はカーナビでも使用されているGPSで容易に確認できるものの、GPSが使用できるようになる前は、水平線からの星の高度を求めて計算する「天文航法」について紹介しました。

最後に、「今はいろいろな勉強をしなければならぬと思うが、将来の目標があったほうが、どういう勉強が必要になってくるかを理解することができ、勉強の仕方も変わってくるはず」という助言を送り、講演は終了となりました。

講演後には、生徒から「一番危なかったことはなんですか」や「一番気に入った港はどこですか」といったものから、「神戸港は良港だと学びましたが、よい港だと思いますか」といった質問があり、講師は自身の経験談を交えながら、時間の限り丁寧に回答しました。また、現在でも海賊が出没する海域があり、もし海賊に遭遇したときはどのように撃退するのかについて、クイズ形式で説明するなど工夫を凝らし、生徒も熱心に回答に聞き入っていたことから、船員の仕事に関心を持った様子でした。

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会では、出前講座が生徒の職業観の形成につながることを期待するとともに、将来の職業選択にあたり「船員」の仕事が選択肢の一つとなるよう、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を引き続き積極的に行いたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)